



市長へ「常陸大宮市史」完成報告

小野教育長、高橋修市史編さん委員長（茨城大学教授）が、『常陸大宮市史 別編2 自然』の完成を報告するとともに、常陸大宮市の自然について対談した模様をお届けします。

小野教育長：市史編さん事業の初刊行となる「自然編」が完成しました。

鈴木市長：大変お疲れ様でした。常陸大宮市に生まれ育った者として、楽しく読ませていただいています。写真が多くて、なじみやすいのもいいですね。

高橋委員長：ありがとうございます。これだけボリュームのある自然編は県内で例がなく、全国的にも珍しいので、注目を集めると思います。

鈴木市長：それにしても、常陸大宮市には実に様々な動植物がいますね。

高橋委員長：常陸大宮市の自然は「生物多様性」

という言葉がまさにぴったりです。南方系と北方系の動植物の交わる地点というのが、常陸大宮市の自然の大きな特徴といえます。

鈴木市長：ただ、近年ではブラックバスなどの外来種、サルやイノシシなどの有害鳥獣も問題になっていて、私たちの悩みの種となっています。その一方で、常陸大宮市にはサシバなどの猛禽類も多く棲んでいますね。

高橋委員長：外来種が増えている割には、在来種もしっかり残っている環境ですし、猛禽類が多く生息するのも、生態系が豊かな証拠です。

鈴木市長：私たちが子供の頃には、6月になると那珂川でも久慈川でもアユ釣りの人たちがたくさん来ていました。減少傾向にあるように感じますが、やはり河川環境の変化でしょうか。

高橋委員長：気候の変化や周辺の開発などで、数十年経つと環境も変わってしまうのだと思います。

鈴木市長：常陸大宮市にとって、豊かな自然というのは一番のアピールポイントです。この成果は、今後活用していきたいと思っています。ありがとうございました。

